

福井県の森林・林業・木材産業の現状

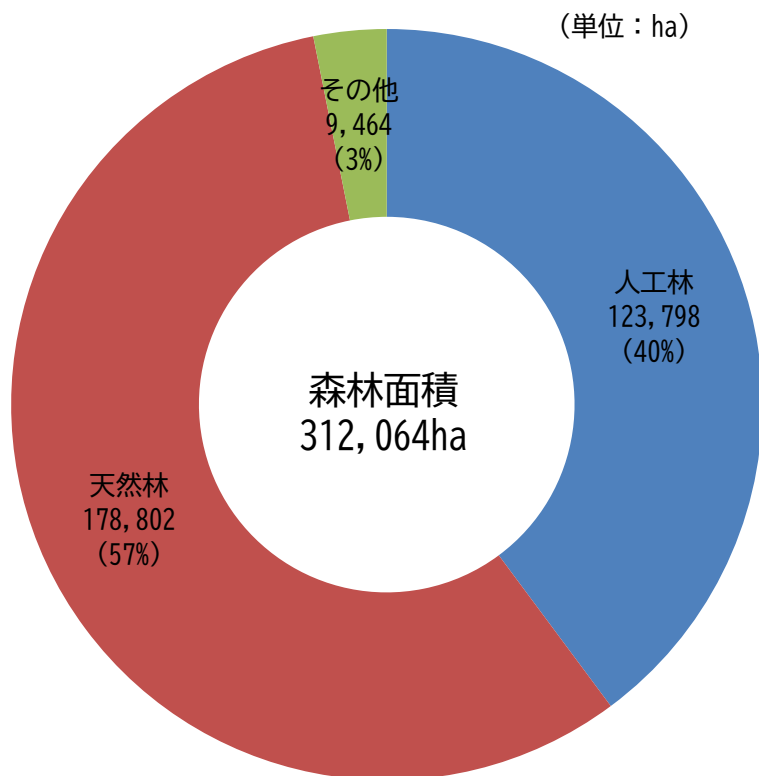
福井県農林水産部
県産材活用課・森づくり課

目 次

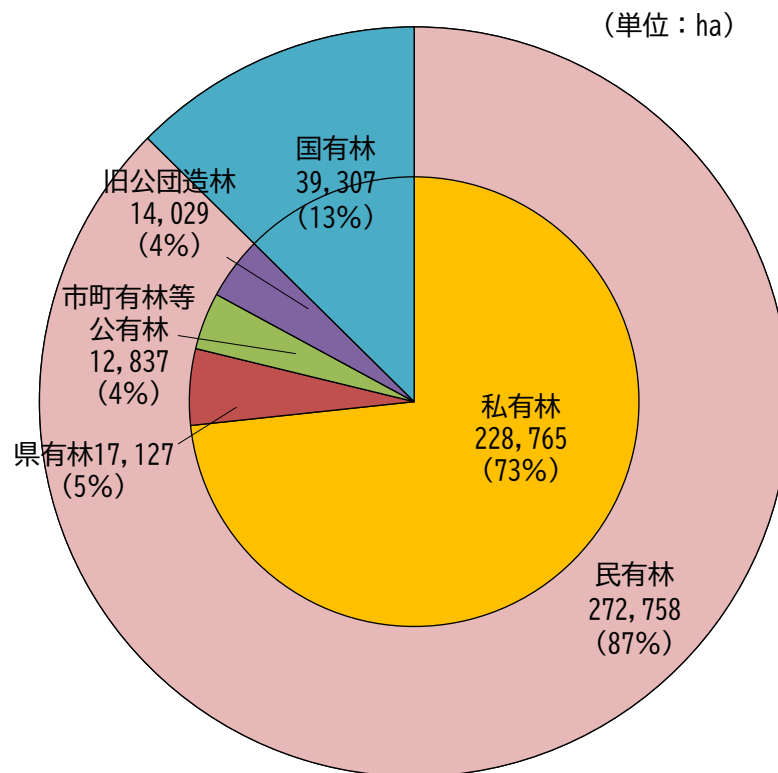
1	福井県の森林資源	
	・ 森林資源の現状	2
	・ 民有林の森林資源の現状	3
	・ 民有林人工林の所有者規模別森林所有者・面積の現状	4
	・ 民有林における人工林年齢構成	5
2	林業	
	・ 素材生産量の推移	6
	・ コミュニティ林業	7
	・ 施業の集約化	8
	・ ふくい型林業経営モデル	9
	・ 高性能林業機械台数・間伐材生産性の推移	10
	・ 造林面積・苗木生産者の推移	11
	・ 林業従事者の推移	12
	・ 自伐型林業の拡大状況	13
	・ 県産材の生産および消費状況	14
	・ 原木の供給体制	15
3	木材産業	
	・ 木材産業の現状	16
	・ 木材需要の動向	17
	・ 木材価格の推移	18
	・ 県産材製品の都市圏・海外における販路開拓	19
	・ 木材輸出の現状	20
4	地域資源・山地防災等	
	・ 森林空間の利活用状況	21
	・ 特用林産物の現状	22
	・ 山地災害の対策状況	23
	・ 森林の獣害および病害虫被害の現状	24
	・ 緑と花の県民運動の現状	25

- 本県の森林面積は312千ha、県土の74%（全国平均67%）
- 所有形態別は私有林が273千ha(87%)、国有林39千ha（13%）
- 森林蓄積量は6,975万 m^3 （人工林4,709万 m^3 、天然林2,267万 m^3 ）

○森林面積（人・天別）



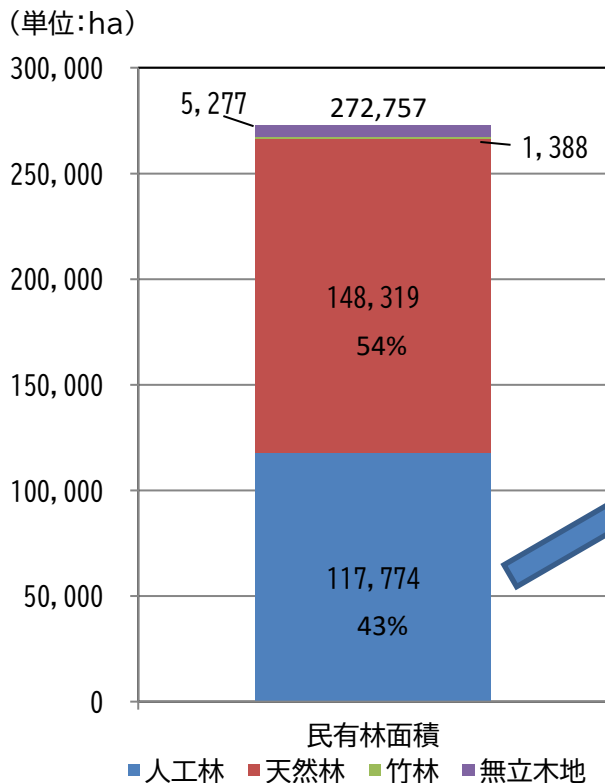
○森林面積（所有別）



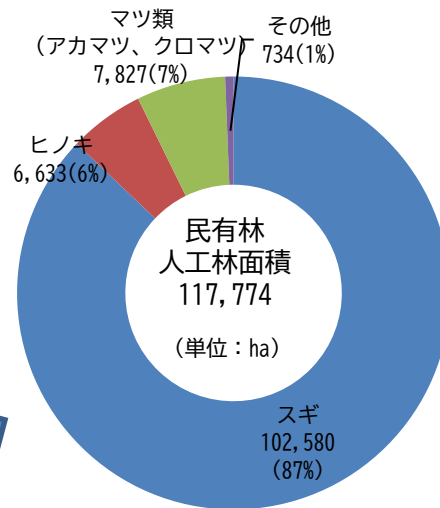
民有林の森林資源の現状

- ・ 民有林面積273千haのうち人工林は118千ha、人工林率は43%（全国平均40%）
- ・ 人工林のうち9割がスギ林（103千ha、4,254万m³）
- ・ 人工林蓄積は毎年約70万m³増加
- ・ 近年の素材生産量は年間約25万m³であり、森林資源はまだまだ活用可能

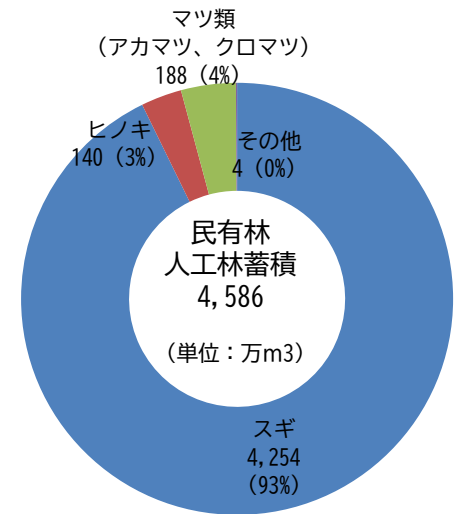
○民有林面積（人・天別）



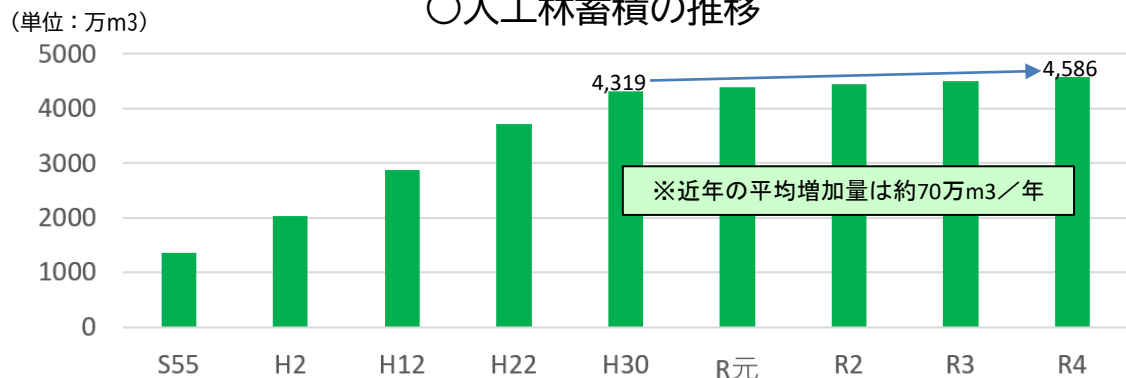
○民有林人工林面積（樹種別）



○民有林人工林蓄積（樹種別）



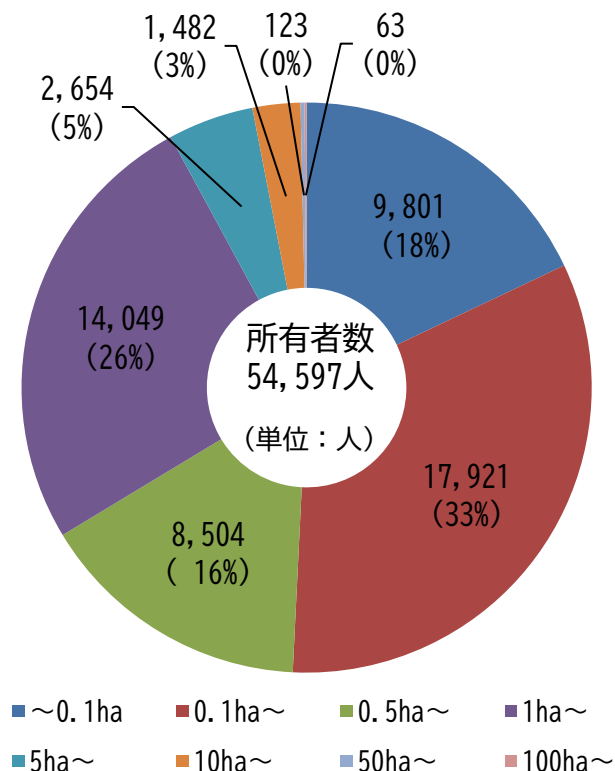
○人工林蓄積の推移



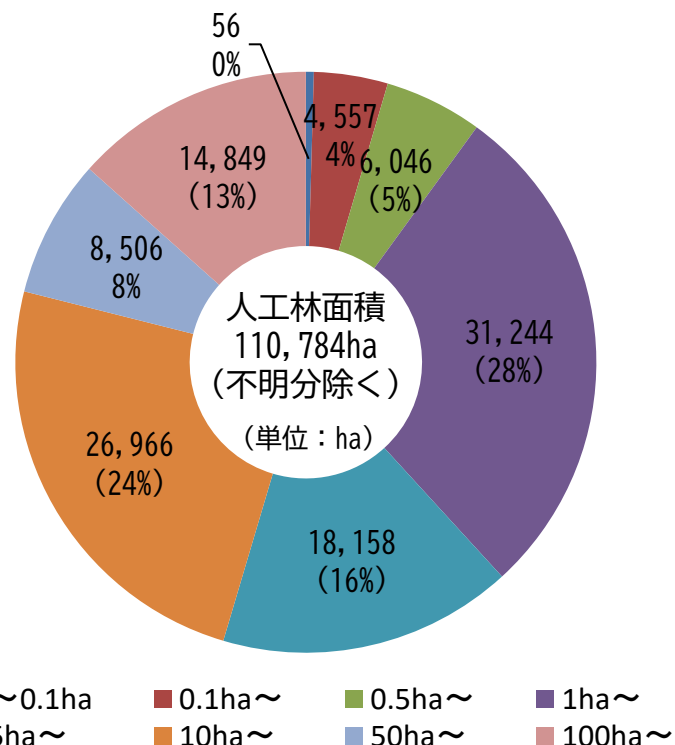
民有林人工林の所有規模別森林所有者・面積の現状

- 1ha未満の森林所有者は県全体の所有者数の半分以上を占めるが、面積に占める割合は約1割程度であり、小規模所有者が多数
- 分収造林を実施している大規模所有者の県および国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林整備センターで県内人工林の約2割を占める

○所有規模別森林所有者数



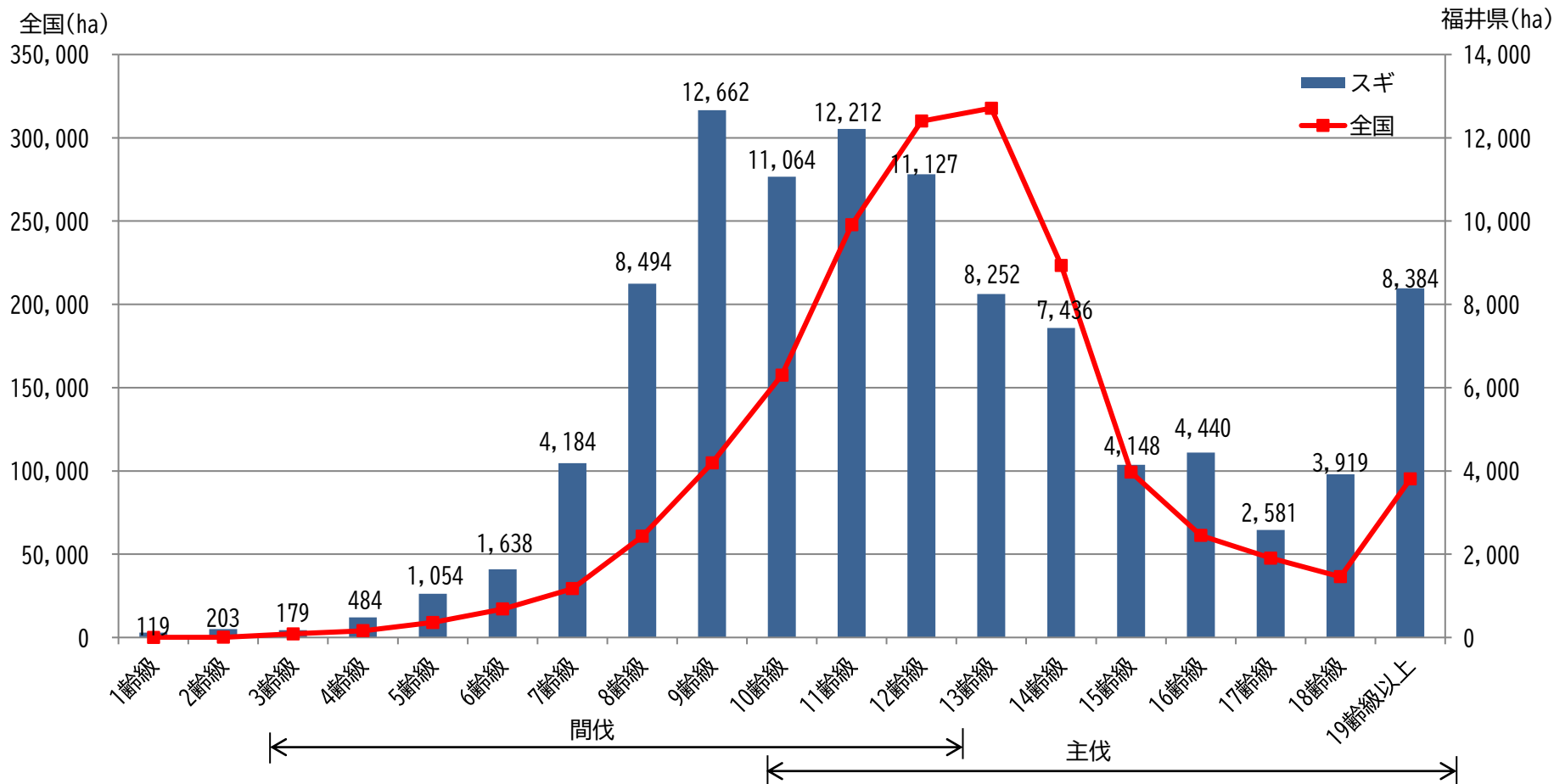
○所有規模別人工林面積



民有林における人工林齢級構成

- 人工林は8～12齢級の面積が多く、全国に比べ若齢であり、間伐が必要な人工林（3～12齢級）が7割
- 柱などとして利用可能な人工林が年々増加（10齢級以上が約6割）
- 今後、持続的な森林経営を実現していくためには、若い森林への更新により人工林の齢級構成の偏りを小さくすることが不可欠

○人工林面積（スギ）



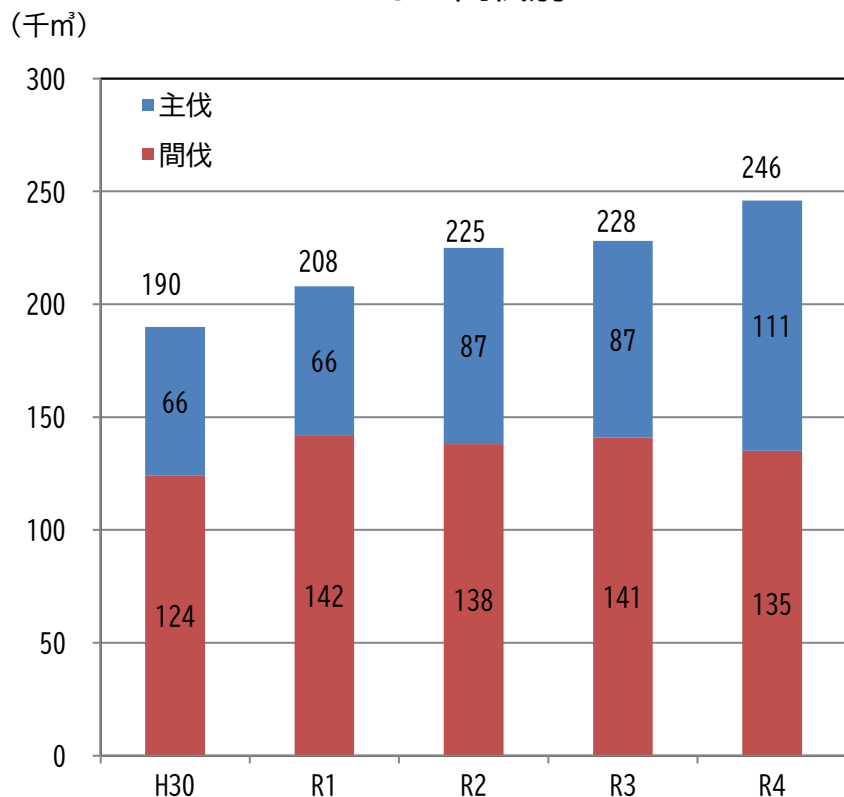
齢級・・・林齢を5年ごとに一括りとした単位（例：林齢1～5年生を1齢級）

森づくり課調べ。R5年3月31日現在

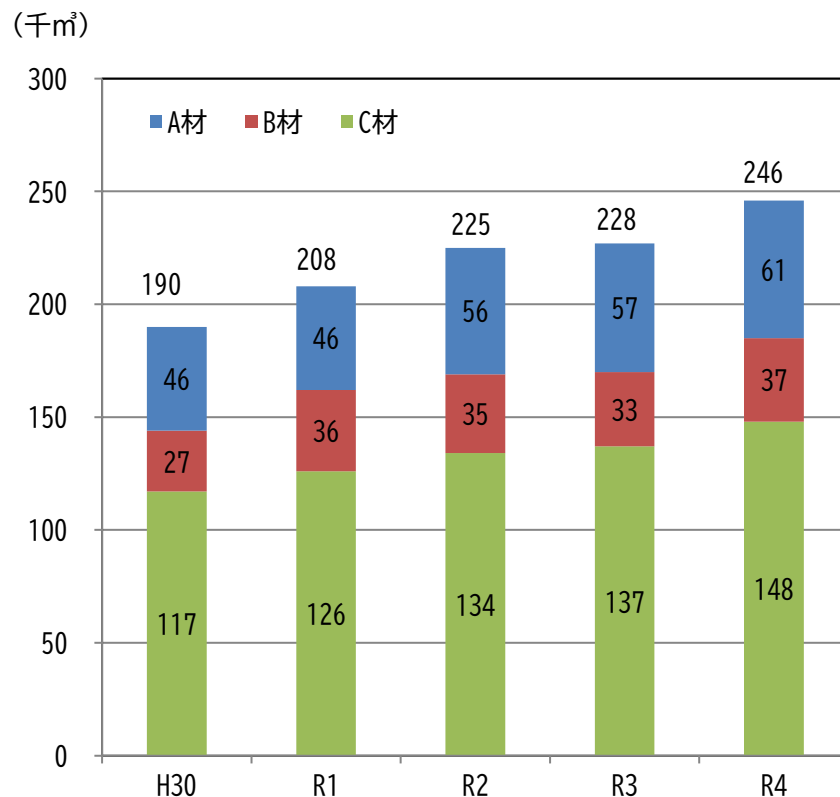
素材生産量の推移

- 近年、搬出間伐の事業量の増加や販路の拡大により素材生産量は増加傾向（H30:190千 m^3 →R4:246千 m^3 ）
〔木材（原木）の主な出荷先〕
- A材は、県内原木市場へのお荷が中心
- B材は、県外の合板工場へのお荷が中心
- C材は、県内バイオマス発電へのお荷が中心（H28稼働開始、原木調達を開始したH26から増加）

○主間伐別



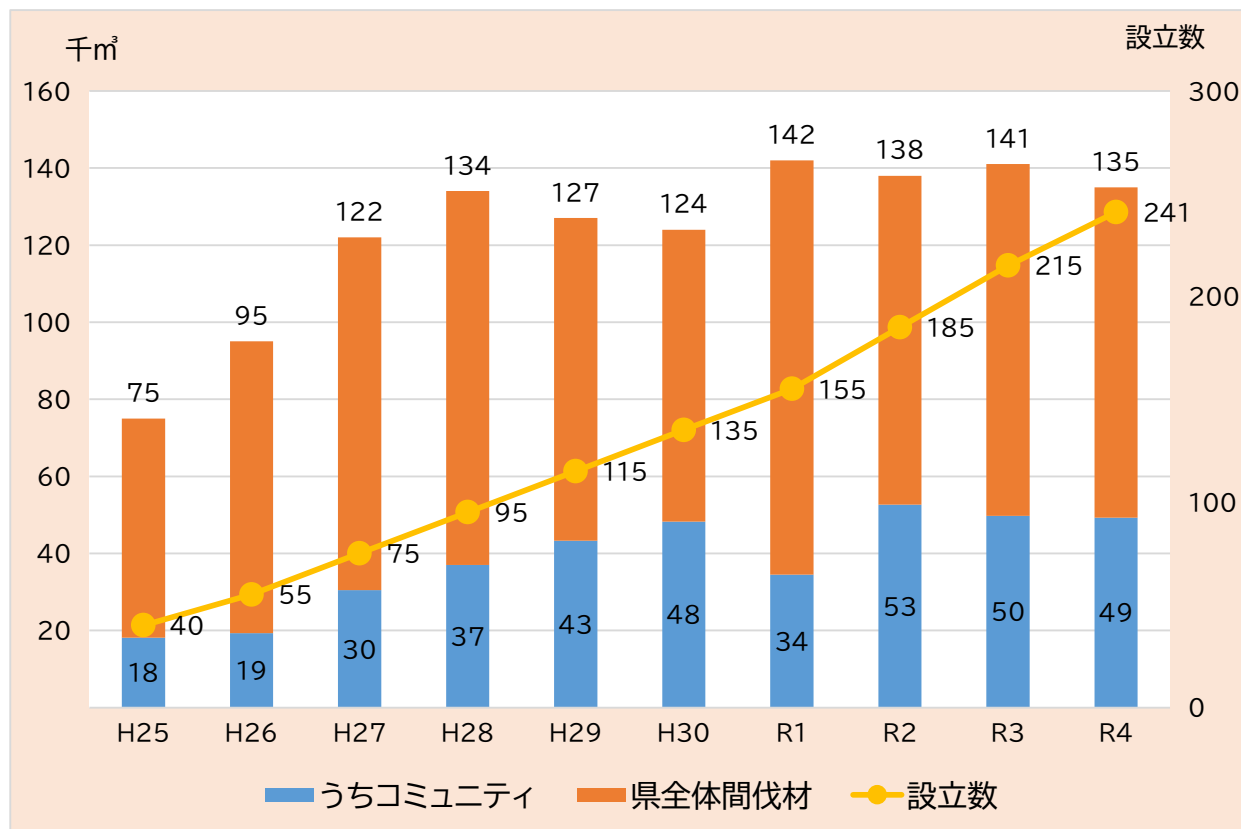
○A、B、C材別



コミュニティ林業（県独自施策）

- 集落を単位として森林所有者等が木材生産組合を設立し、境界確認や作業道の線形等について合意形成
- 間伐等による木材生産の計画を立てることで、計画的な生産を推進

○年度別設立数(累計)と間伐材生産量に占める
コミュニティ林業での生産量



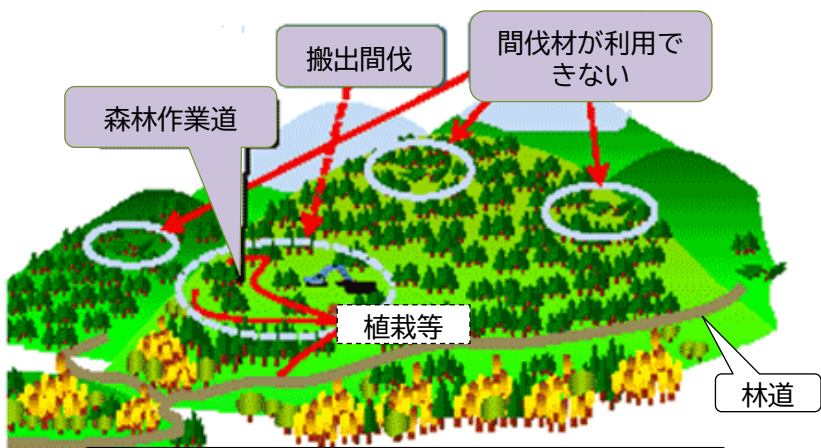
【合意形成】



【森林資源・境界調査】

施業の集約化(間伐)

集約化されていない場合



路網整備が進まない

集約化されていない場合、
個々の**森林所有者がバラバラ**
に間伐を実施することから、
路網の開設が進まず、**間伐材**
を利用することができない

集約化を進めた場合



路網整備・集約化を推進

集落の所有者の森林をとりま
とめて、**路網整備や間伐等の**
森林施業を一括して実施し、
効率的に間伐材等を取集・利
用することで収益が向上

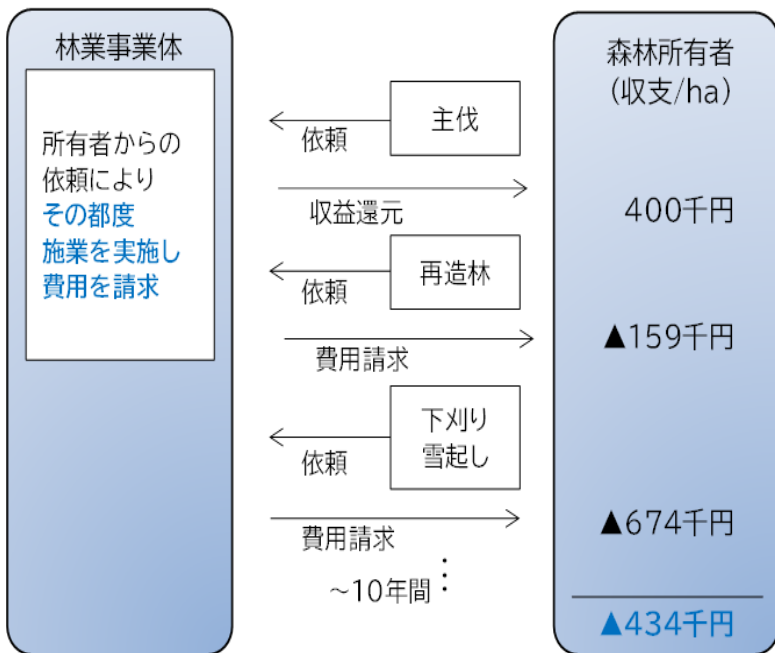
ふくい型林業経営モデル(主伐・再造林)

森林所有者と林業事業者が「主伐・再造林・保育」について10年程度の長期一括契約を締結

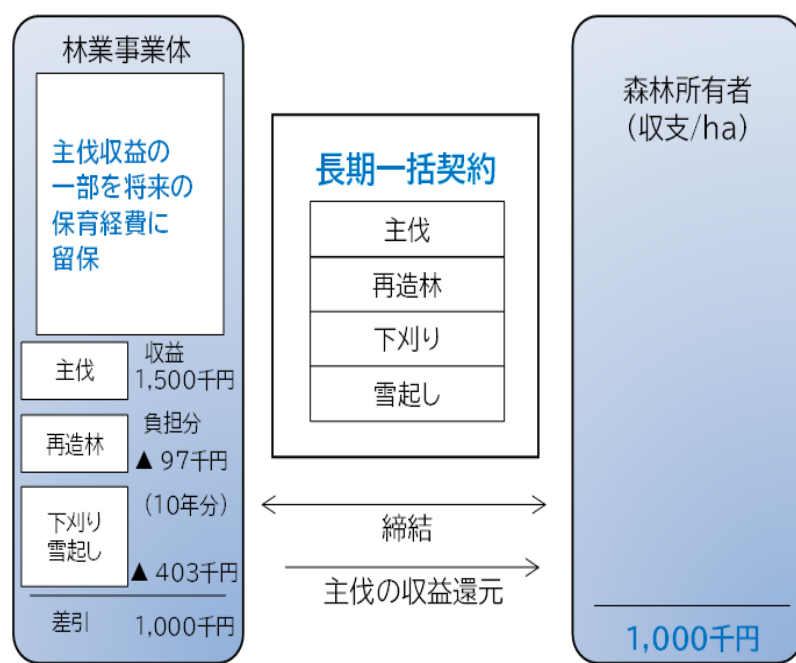
【効果】

- ・主伐の推進による収益UPと県産材生産量の拡大
- ・森林所有者の管理負担の解消

これまでの主伐・再造林・保育



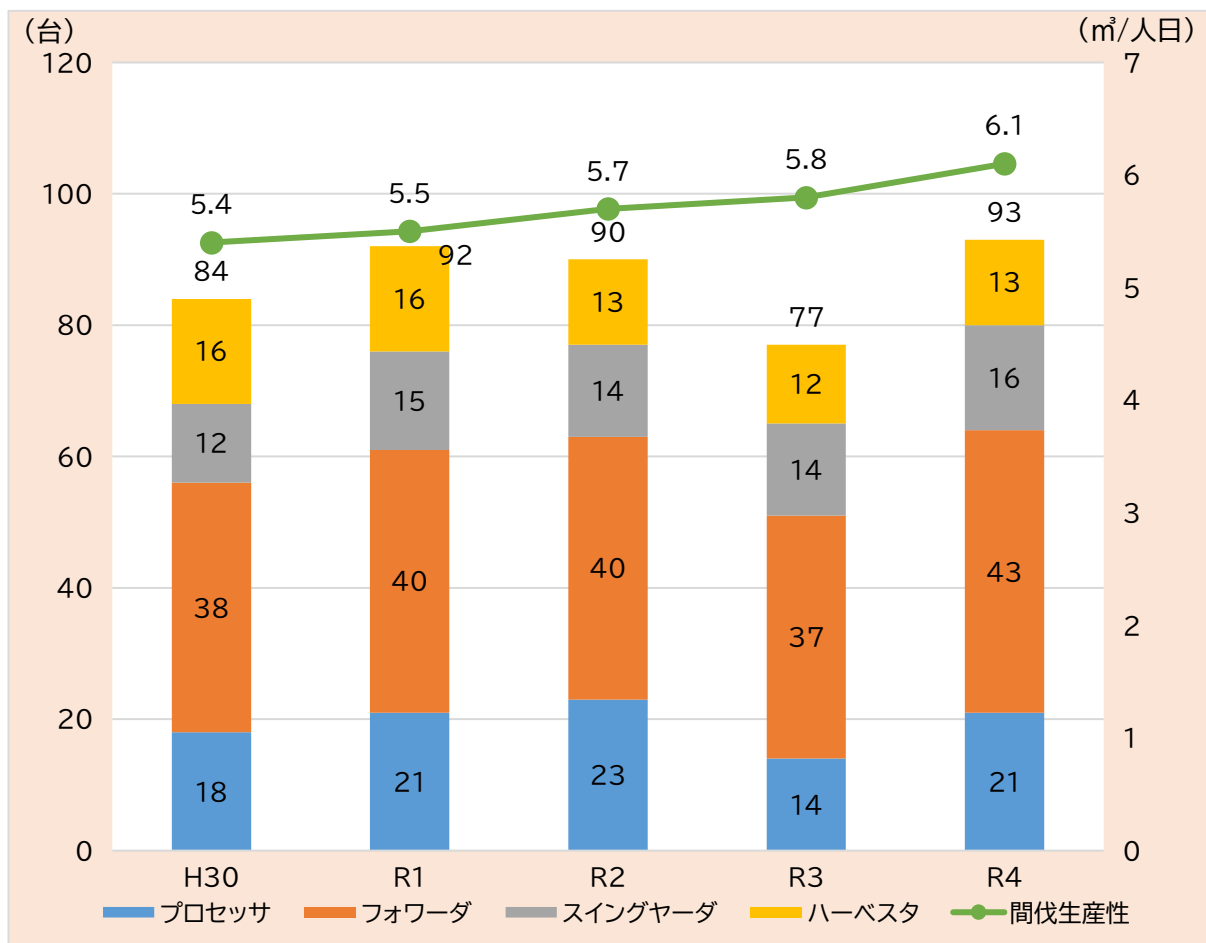
目指す姿:ふくい型林業経営モデル



高性能林業機械台数・間伐材生産性の推移

- 高性能林業機械の台数の増加により間伐の木材生産性は向上
- 高性能林業機械のうちフォワーダの台数割合が多い

○年度別高性能林業機械稼働台数および間伐材生産性の推移



※リース等含む



【プロセッサ】

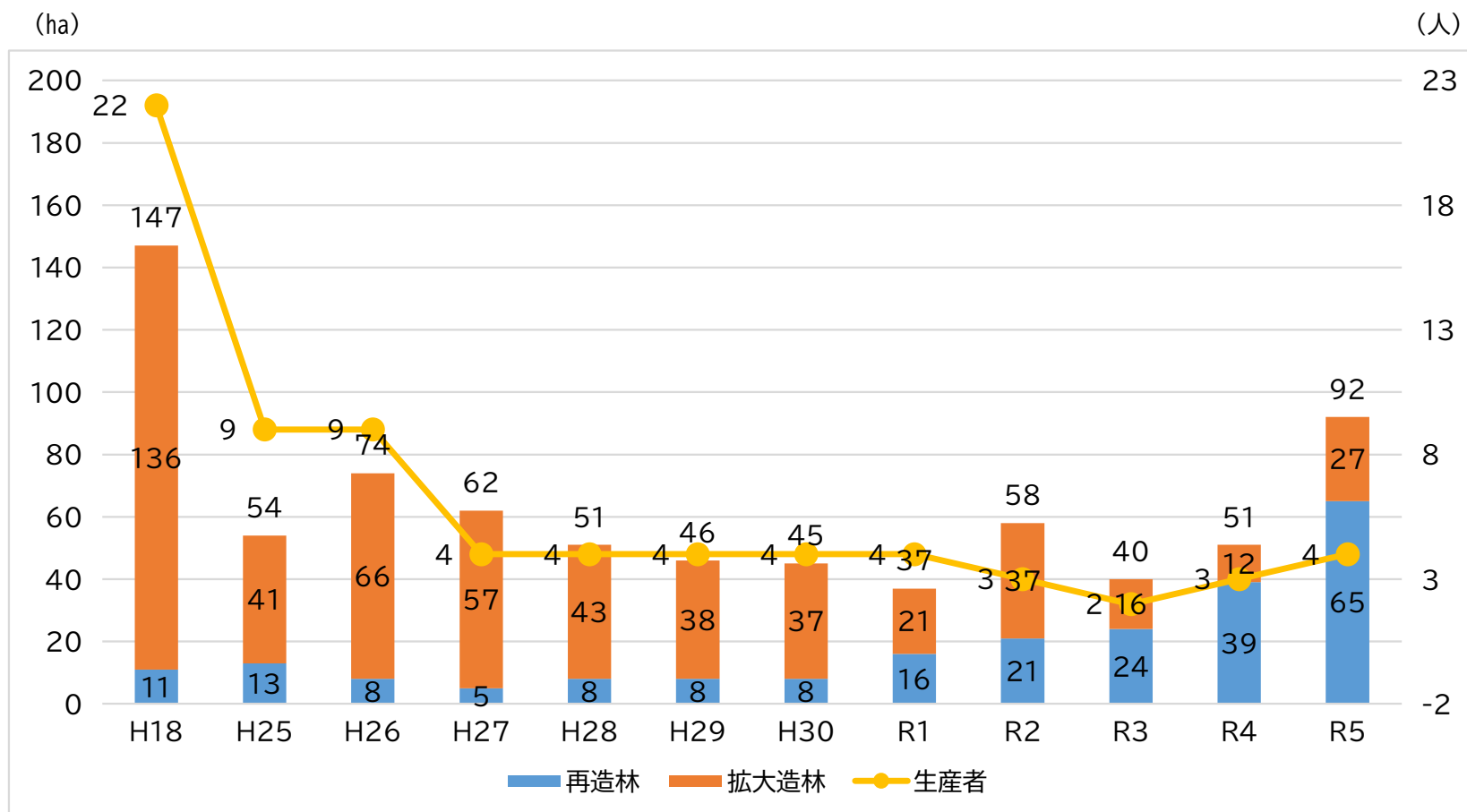


【フォワーダ】

造林面積・苗木生産者の推移

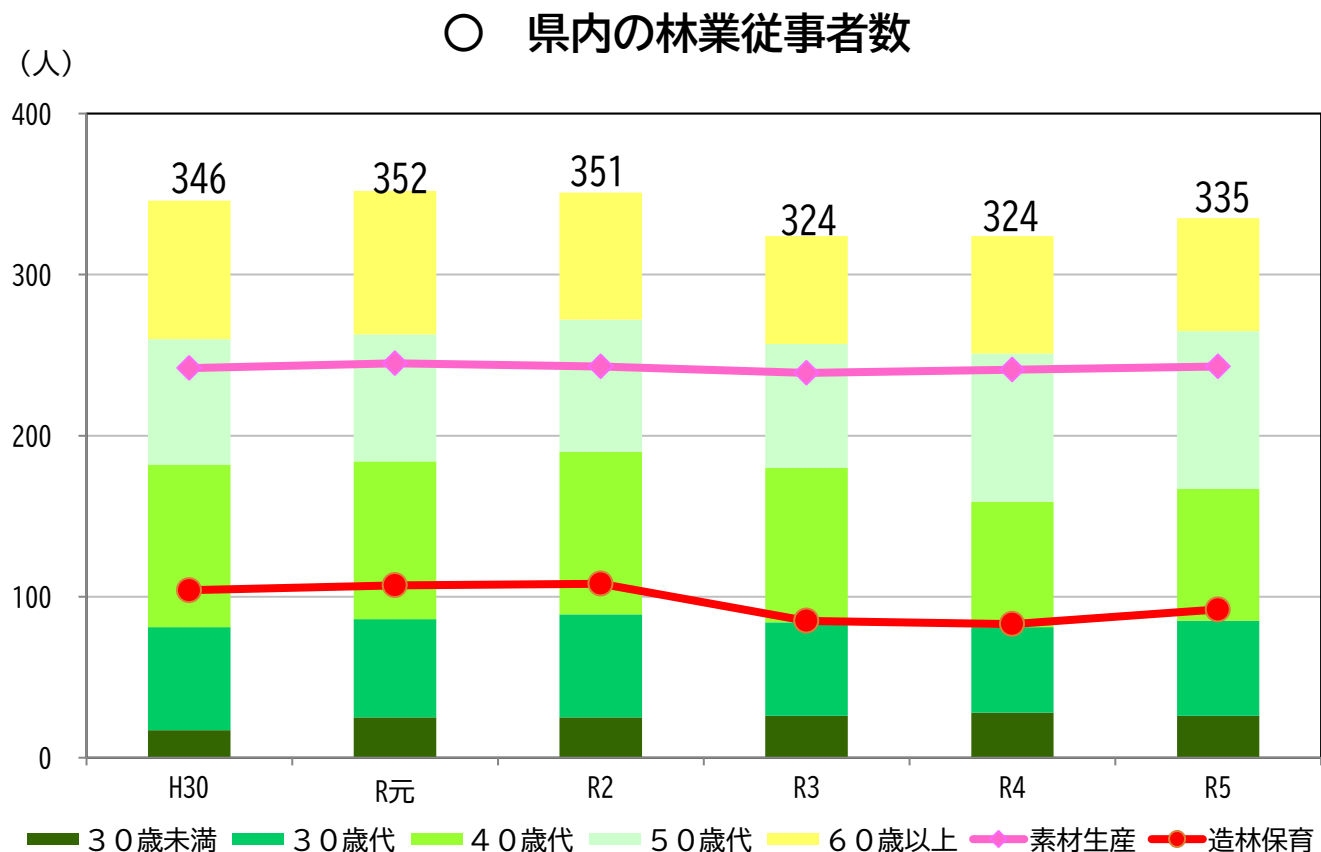
- これまで造林面積は低位で推移していたが、主伐・再造林の推進により近年増加傾向
- 苗木生産者はR6にて5団体
- 再造林の低コスト化に資するコンテナ苗の県内生産がR3から開始

○造林面積および苗木生産者の推移



林業従事者の推移

- 平成28年度に開校した「ふくい林業カレッジ」等により一定数（30名前後）の新規就業者を確保
- 令和2年度までは約350名で横ばいに推移していたが、R3年度には高齢化や身体的負担等の理由から退職者が増え、従事者が減少
- 素材生産に従事する林業従事者は横ばいで推移（242人（H30） → 243人（R5））
- 造林保育に従事する林業従事者は減少傾向（104人（H30） → 92人（R5）約1割減）



【林業カレッジ研修状況】

自伐型林業の拡大状況

- R4年度から自伐林家等の木材生産に係る支援を開始し、R4年度からは移住者給付金や研修及び副業への支援実施
- R5年度に開校した自伐型林業大学校（県、福井市支援）に県内外から多くの受講生が参加（37名）
- このうち、卒業生8名が県内で新たに自伐型林業を開始
 - ⇒ 県内卒業生5名（団体設立2名、団体設立準備中3名）、県外卒業生（移住者）3名
 - H30年度：3団体 24名 ⇒ 10団体 40名 に拡大（R6.5末 現在）



【自伐型林業大学校の開校】

<福井三花山守隊>
(福井市花守町)



<福井かひる山風土舎>
(南越前町大桐)



【卒業生が新たに自伐型林業を開始】

<自伐型林業を目的とした移住>



※他3名団体設立準備中

【自立の状況】

10団体中、自伐型林業で自立している団体は2団体（松平氏、宮田氏）

⇒ 収益性の高い半林半Xのモデル化により
移住促進や中山間地域の活性化を実現

県産材の生産および消費状況 (R4)

令和4年度県産材生産量 246

所有者

施業
実施者

国有林
1

組合：1

水源林
1

組合：1

市町有林
6

組合：6

県有林
30

組合：1
共同
企業体：29

私有林
208

組合：68
民間：140

森林組合
106

民間
事業体
72

その他
土木工事
等
68

県内木材市場
(4か所)
61

加工

県内：200

製材工場
54

発電用チップ工場
121

土木用資材等
3

木材チップ工場
22

県外：46

製材工場等
10

合板工場
33

原木輸出
3

木材販売業者等

消費

県内

工務店等

木質バイオマス
発電施設

熱利用施設

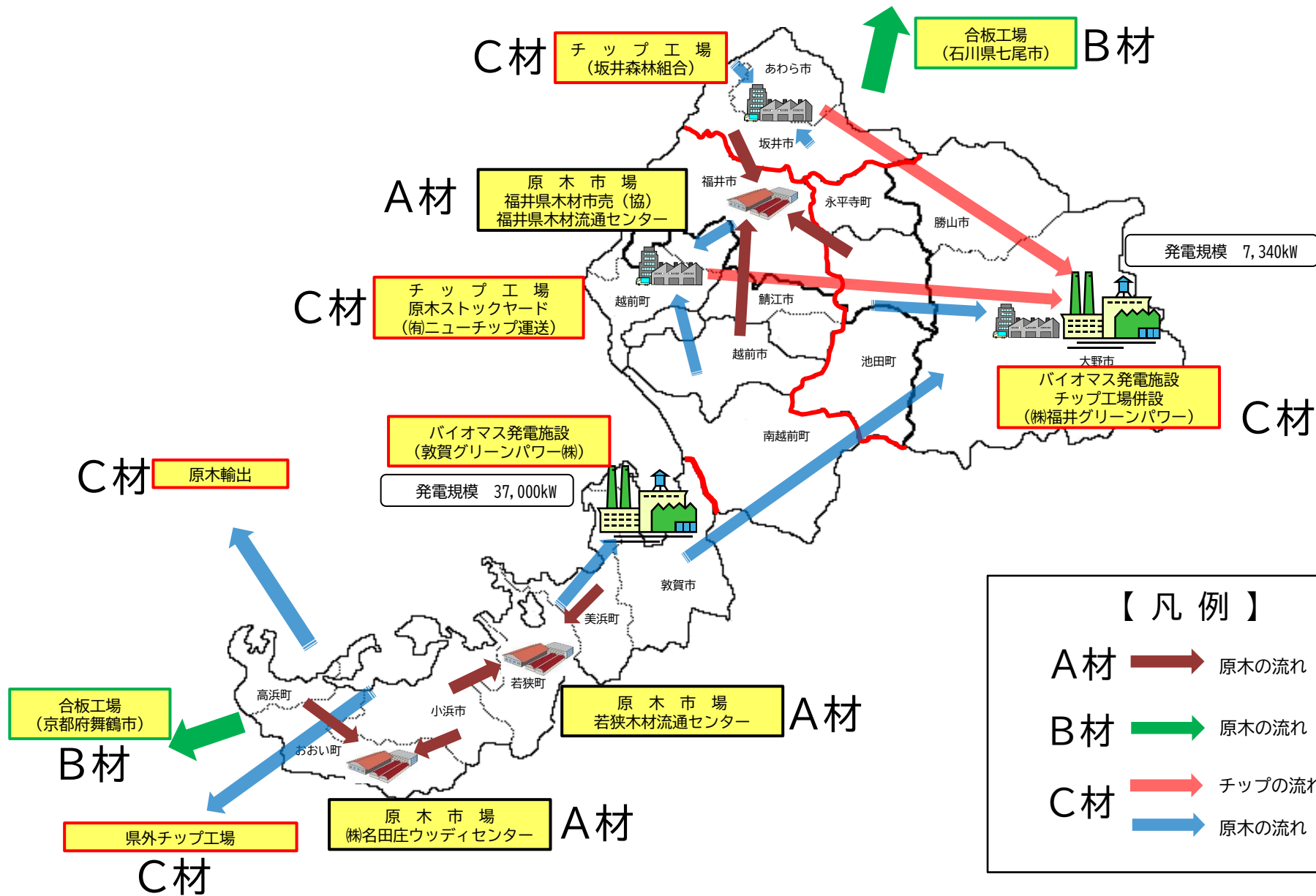
土木用資材等

県外

単位：千m³

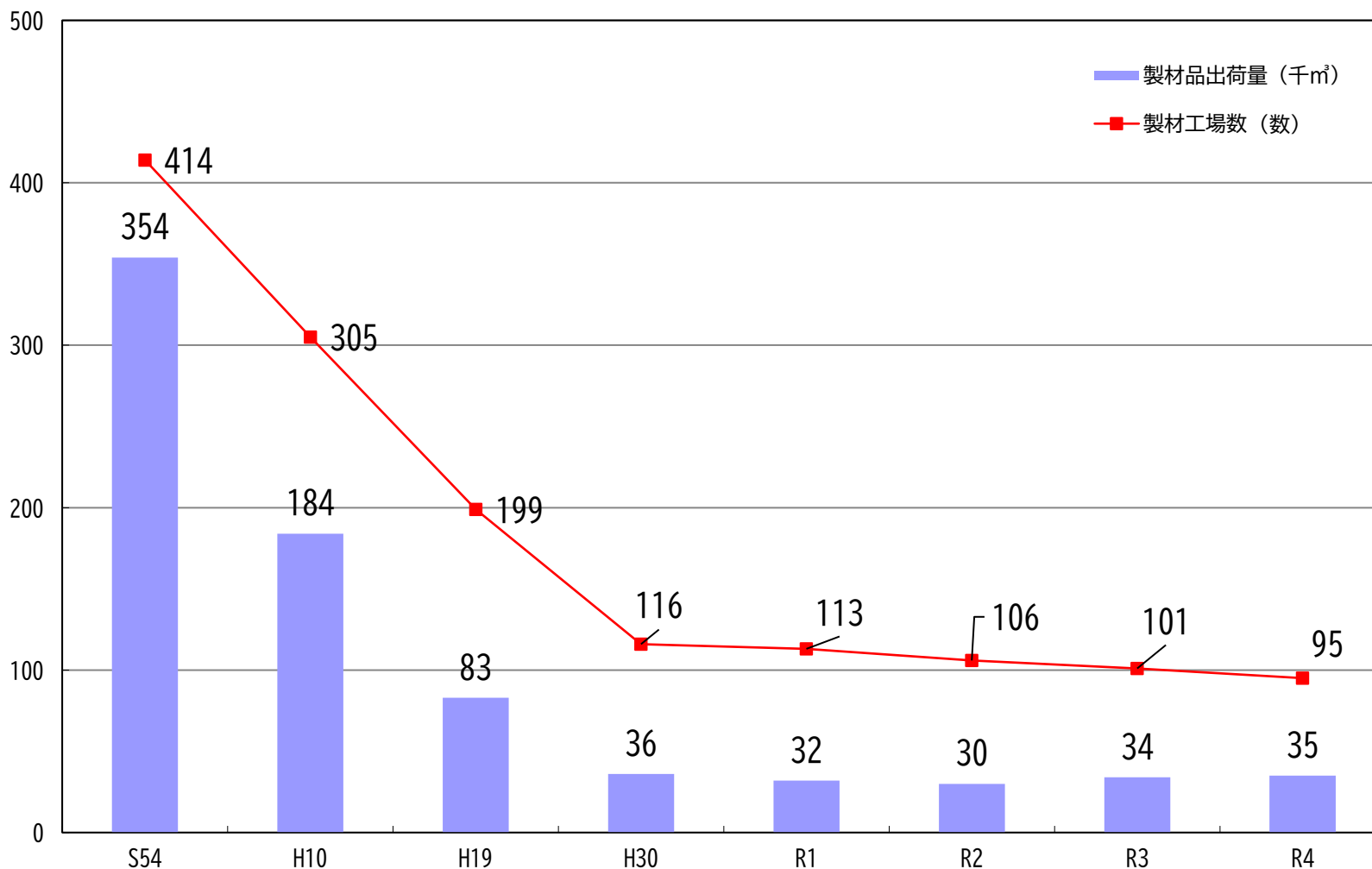
農林水産省大臣官房統計部「木材統計」
および県産材活用課調べにより作成

原木の供給体制



- ・ 製材工場数、製材品出荷量とも年々減少
- ・ 1 製材工場の出荷量は 370m^3 (R4) で全国平均 $2,280\text{m}^3$ の6分の1であり、小規模零細な工場が多数

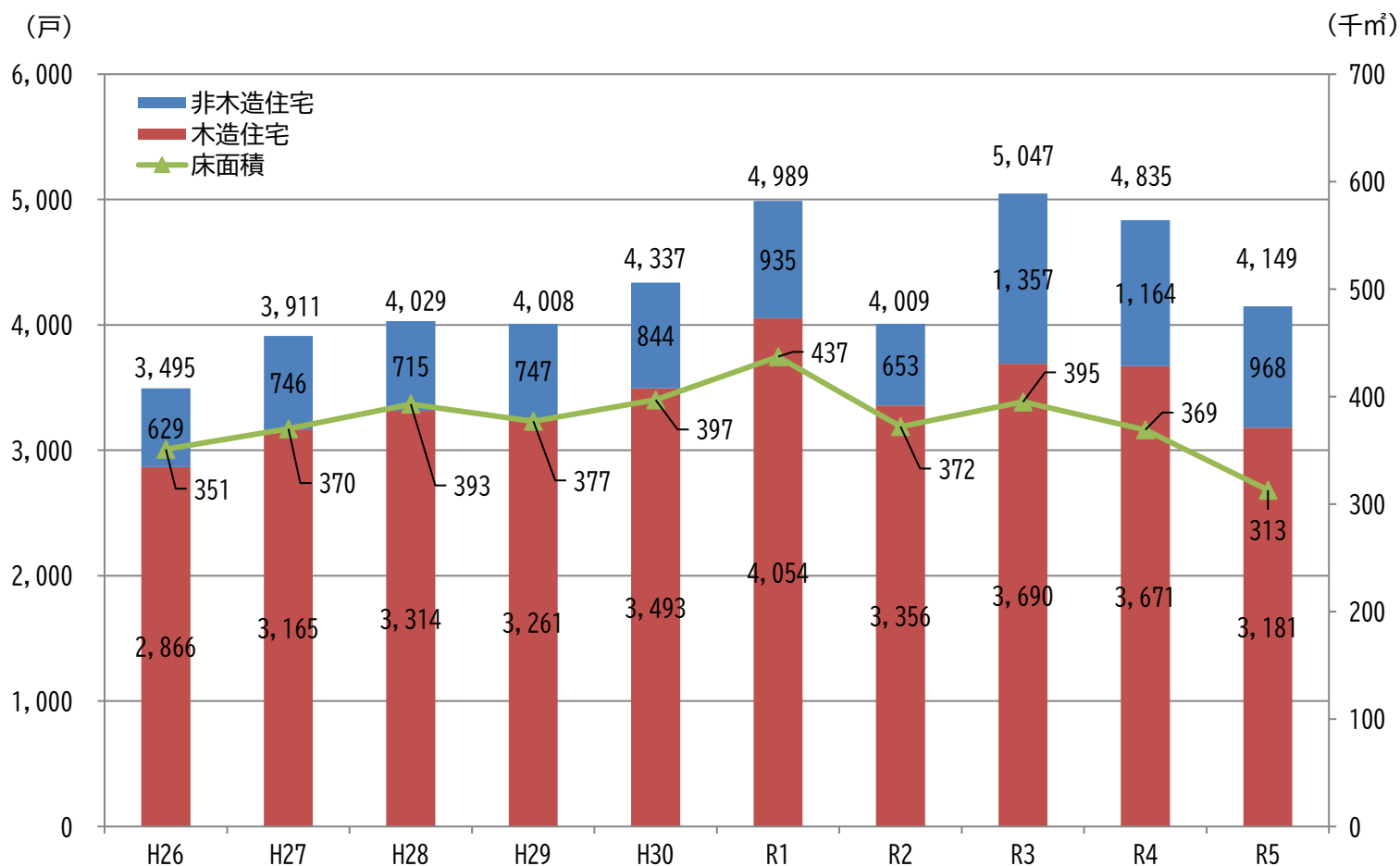
○製材工場数・製材品出荷量の推移



木材需要の動向

- 近年の新築住宅着工数は減少、木造率は全体の8割
- 近年の木造住宅の床面積も減少

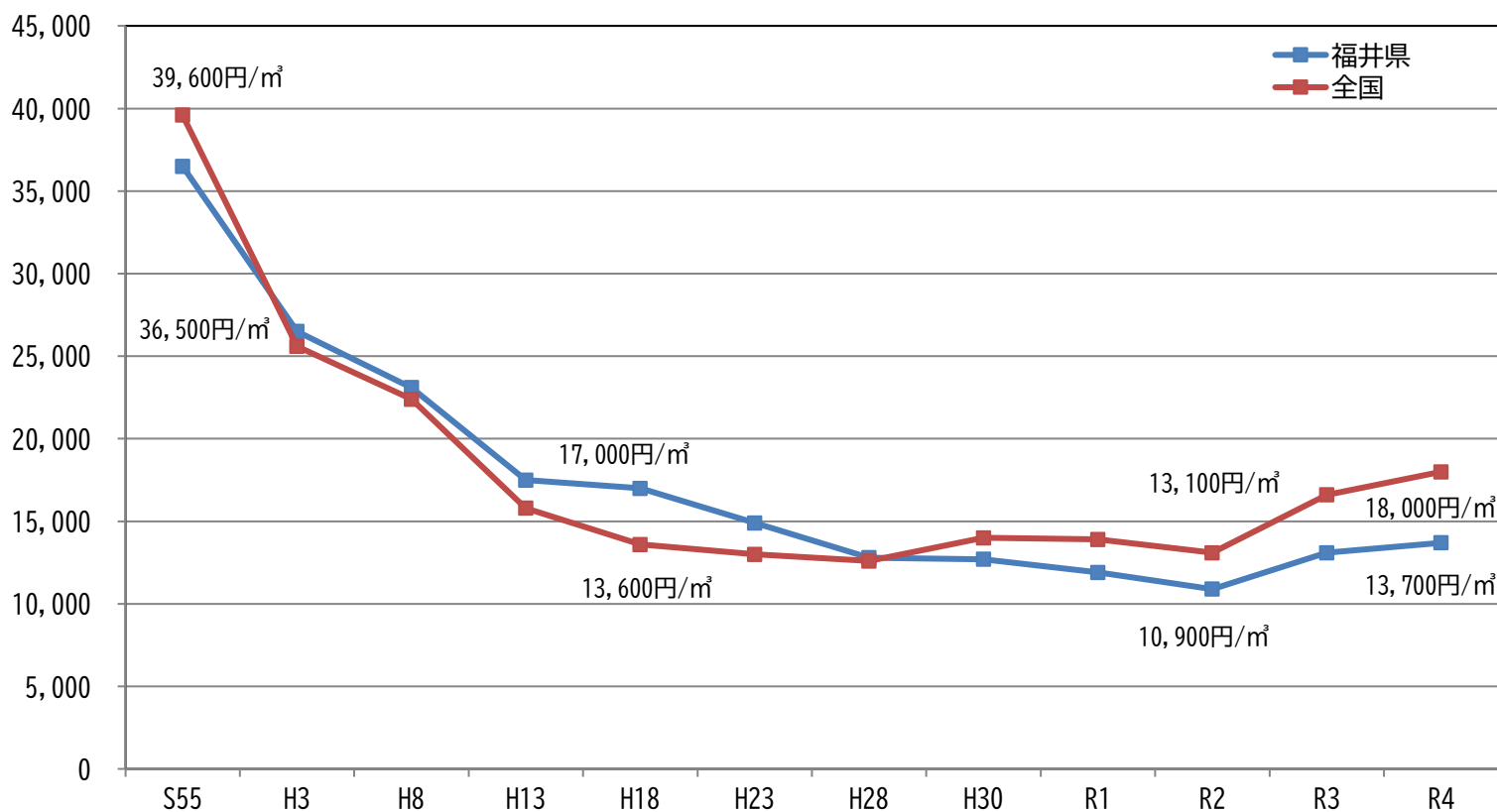
○新設住宅着工戸数および木造住宅の床面積の推移（福井県）



- 木材価格は昭和55年をピークに低迷し、近年は横ばいで推移
- 令和3年以降ウッドショックの影響により価格が高騰したが、現在は下落傾向

○スギ中丸太価格推移（県内4市場平均価格）

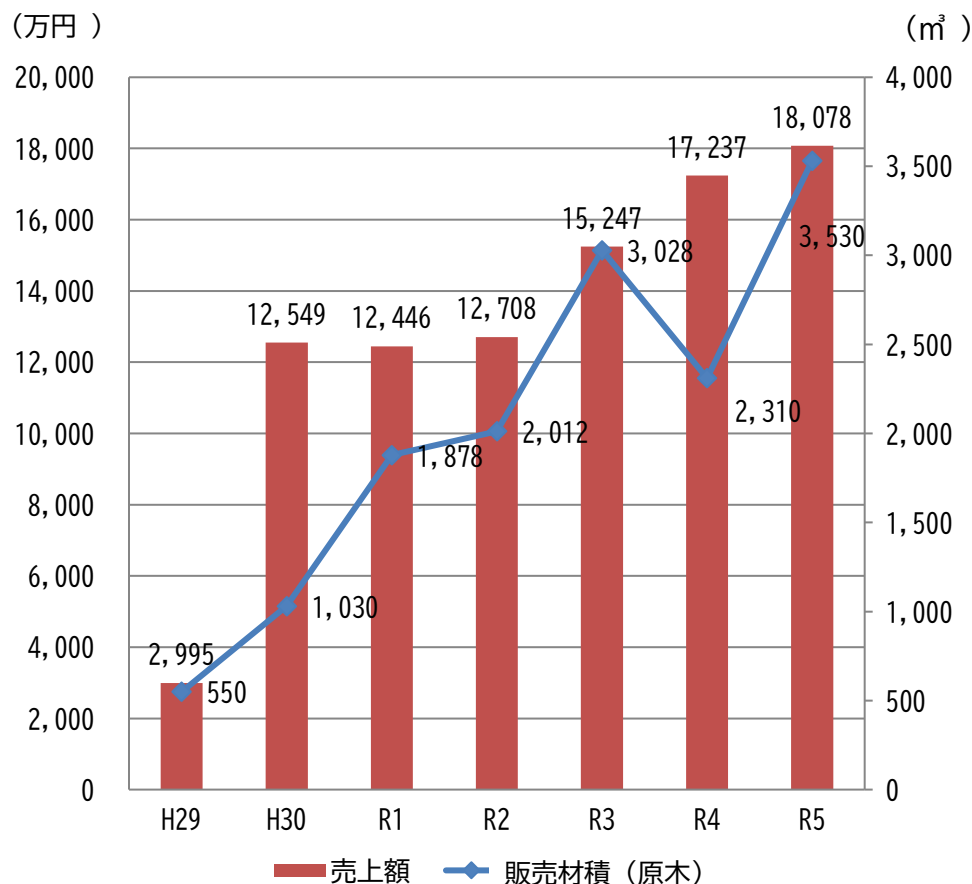
(単位：円/㎡)



県産材製品の都市圏・海外における販路開拓

- 平成29年度から大規模展示会への出展や商談会の開催などにより都市圏における販路を開拓
- 海外への販路開拓を令和元年度から開始（台湾・インドネシアでの取組み）
- デザイン化した内装材、不燃木材や防腐材など付加価値の高い県産材製品を販売

○県の取組による都市圏等への販売実績



【国際ホテルレストランショー2023出展】

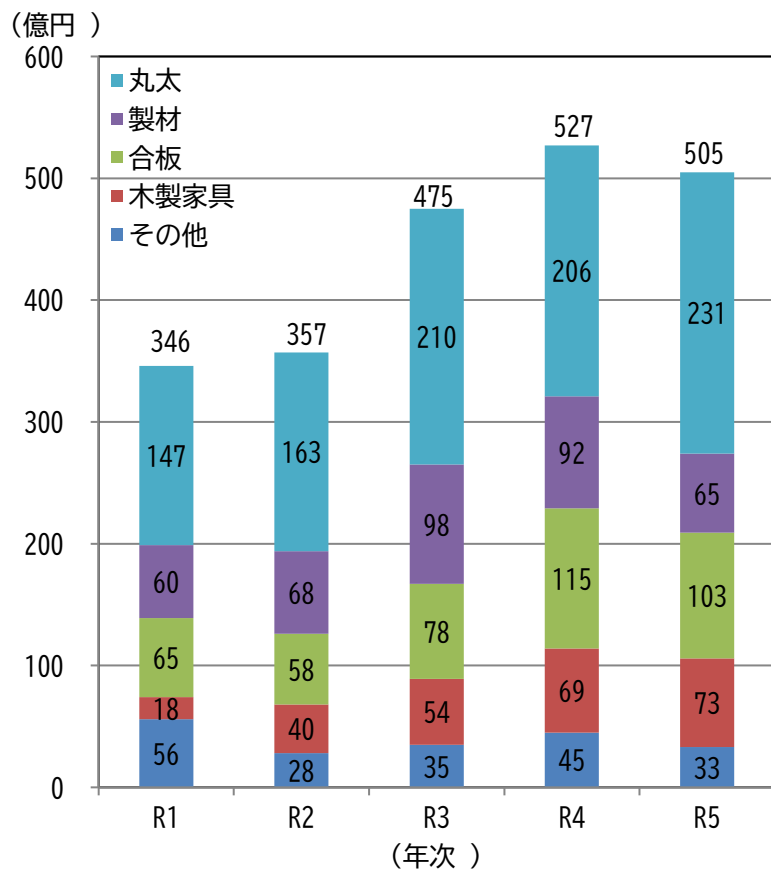


【不燃木材の内装材】

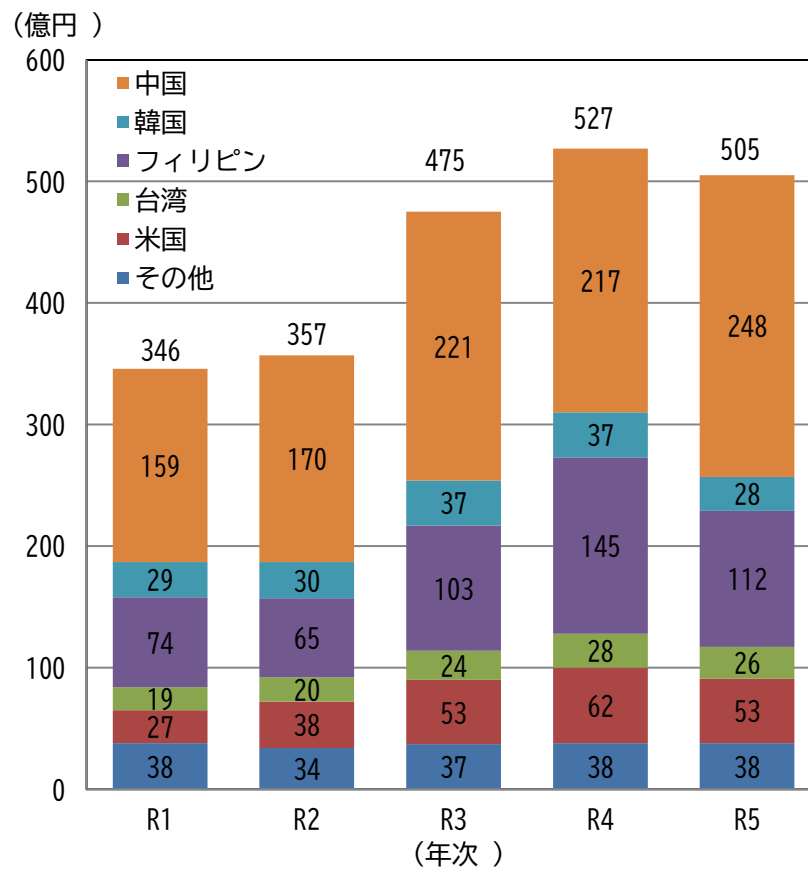
木材輸出の現状（全国）

- 日本の木材輸出額は年々増加し、令和4年には527億円、令和5年には505億円
- 品目別では、梱包材や土木資材向けの低価格・低質な丸太が4割以上
- 輸出先国別では、中国・韓国・フィリピン・台湾・米国で9割を占める
- 製材・合板等の付加価値の高い木材製品の輸出拡大と新たな輸出先の開拓が必要

○主な品目木材輸出額の推移



○国別木材輸出額の推移



- 森林の多様な活用による山村の活性化を図るため、トレイルや森林ヨガなどの森林体験を県内各地に広めるとともに、情報発信等による誘客を促進
- 森林空間の利活用のため、森林体験の取組みを検討する団体を対象に研修会等を開催
- 団体同士が情報交換と連携を進めるためのプラットフォーム（フェイスブック）を県で新たに整備
- 若狭町熊川地区にて新たなトレイルコース整備へ支援（R6年3月オープン）

⇒ 新たな森林活用に取り組む団体（R2～5）：13団体

森林体験研修会等の開催



【森林体験先進事例研修会の開催】



【森林体験研修会の開催】

トレイルイベント等の開催

年度	R2	R3	R4	R5
トレイル参加者(人)	70	330	2,794	3,729



【トレイルイベントの開催】

特用林産物の現状

- 地域資源である特用林産物のブランド力強化を図り、県産ブランドきのこの生産（香福茸・九頭竜マイタケ）による販売単価の上昇や、林業遺産認定によるブランド力が向上
- 香福茸の生産や販路拡大のため、飲食店関係者への栽培地見学・試食会の開催や農事組合等に対する新規生産の働きかけを実施

⇒ 特用林産物生産額 H30 : 8億円 → R5 : 8.8億円)

◎県産ブランドきのこの生産販売の促進

香福茸



平成27年度から付加価値の高い大型で肉厚なジャンボしいたけ「香福茸」のブランド化の取り組みを開始
R5年度は生産量が過去最高を記録
(金・銀・姫 計 276kg)

極上マイタケ



平成29年度から野生菌株の採取を開始し、成分分析や食味試験を経て、令和5年度に最優良種2品種を選抜。
今後は短木栽培に向けて、普及等を実施

◎全国に誇れる特用林産物の生産技術の継承

研磨炭



【平成27年度
林業遺産認定】
漆器の表面研磨などに不可欠な研磨炭の、伝統的な生産技術を継承する唯一の事例で、漆工芸品・金属加工品の製作になくてはならない研磨用品

熊川葛



【平成27年度
林業遺産認定】
江戸時代から現在まで変わらぬ製法により、技術と品質を現在に引き継ぐ。
熊川葛はくず湯や葛まんじゅうとして親しまれている

越前オウレン



【平成26年度
林業遺産認定】
高標高地の林床を利用した薬用植物として、希少な栽培地と栽培技術を有し、整腸薬など多くの漢方薬に配合されている

山地災害の対策状況

- 近年、局地的な集中豪雨が頻発する傾向が強まり、これまでにない激甚な災害が発生しやすい状況
- 最近5力年間（R元～5年）県内で新たに治山事業による災害復旧を約140力所、既設治山施設の補修や機能強化を41力所実施
※県内の治山施設数（R5年度末現在）約6,500力所

● 治山事業（山腹工）による災害復旧事例（令和4年8月 豪雨災）

【被災後】

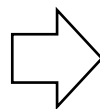


【山腹工（勝山市野向町横倉）】

【完成】



【山腹工（勝山市野向町横倉）】



● 治山事業（治山ダム工）による流出土砂の捕捉事例



【治山ダム工【リングネット】（福井市蒲生）】

● 治山事業（治山ダム工）施行事例



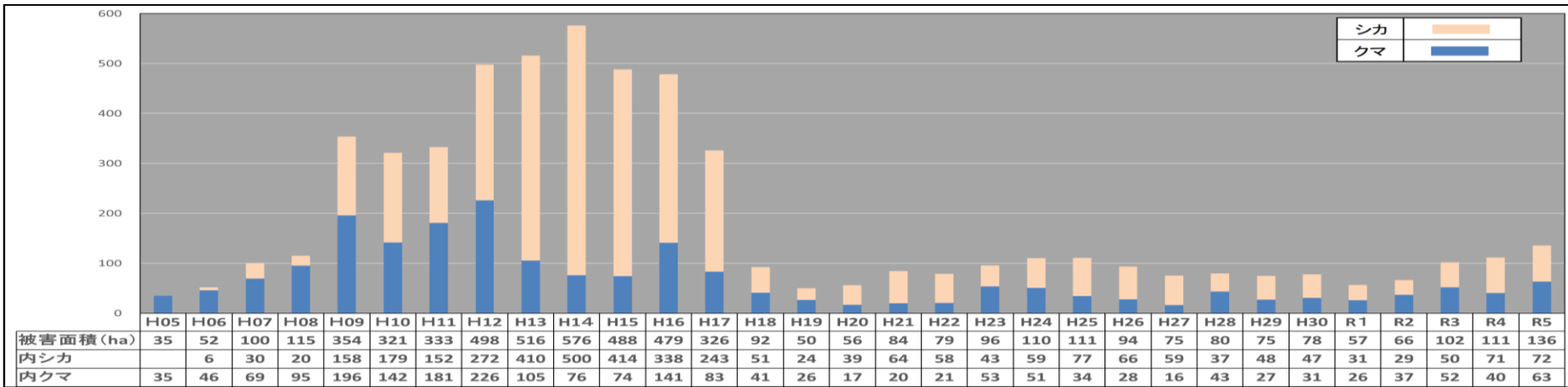
【治山ダム工（大野市角野）】

森林の獣害および病害虫被害の現状

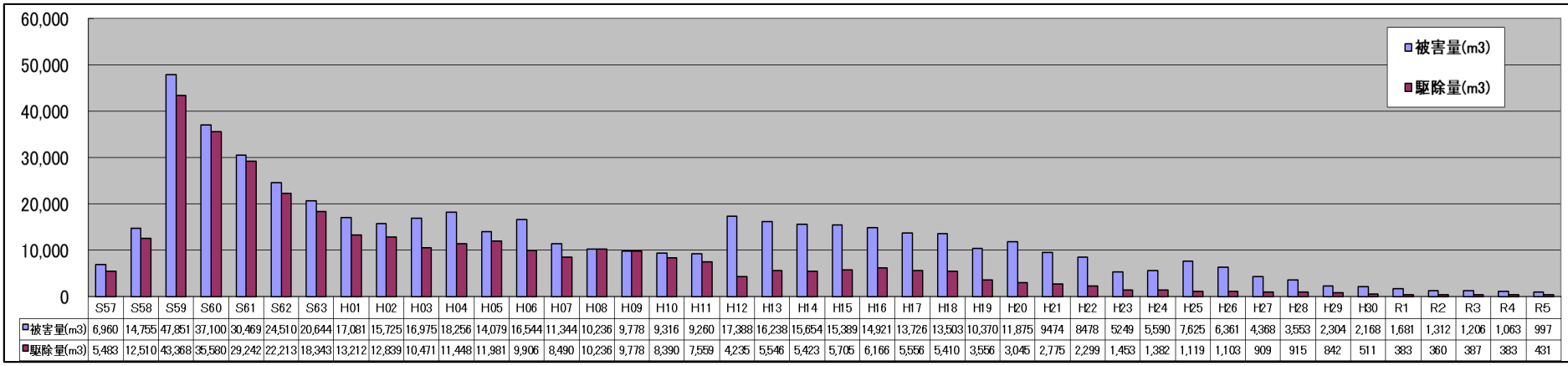
- ・ 獣害による森林被害の軽減のため森林組合等によるシカ捕獲活動や、松くい虫に対する着実な防除を実施
- ・ 近年は、獣害による森林被害や松くい虫被害とも低いレベルでの増減を繰り返している状況

<獣害被害> H14 : 576ha (ピーク) ⇒ R5 : 136ha <松くい虫被害量> S59 : 47,851m³ (ピーク) ⇒ R5 : 997m³

○シカ・クマによる森林被害の推移



○松くい虫被害量と駆除量の推

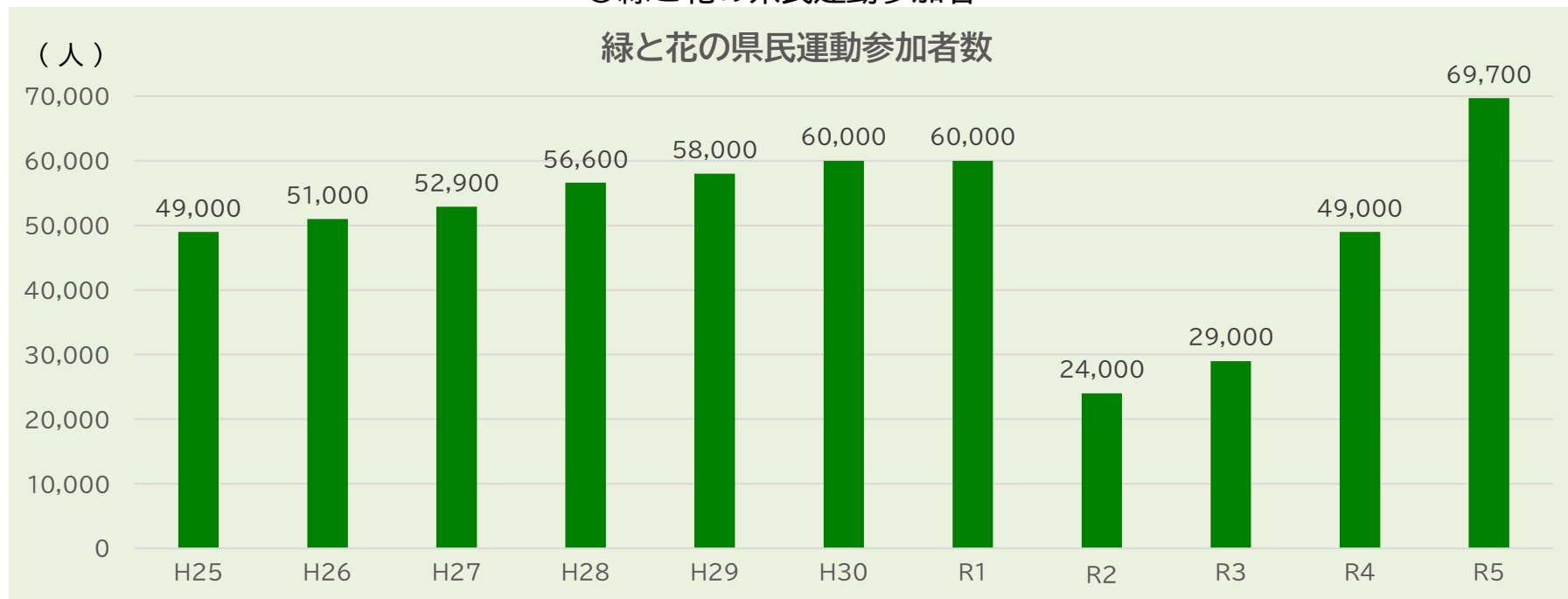


緑と花の県民運動の現状

- 全国植樹祭を契機とした緑と花の県民運動が着実に浸透（※R2～R4は新型コロナウイルスの影響あり）

○緑と花の県民運動参加者

緑と花の県民運動参加者数



森づくり課調べ



緑と花のふるさとをつくる運動



小中学生ワクワク
花づくりサポート事業



花いっぱい運動推進員による
花づくり活動



元気な森をつくる運動



企業の森づくり活動



D I Y体験



自然を知り伝える運動



トレイルランの開催



きのこ観察会